

第23回公民館研究大会 平成13年度生涯学習推進大会

2月3日(日)、松前総合文化センター広域学習ホールで、第23回公民館研究大会・平成13年度生涯学習推進大会が、600名を超える参加者のもと開催されました。

大会に先立ち、公民館活動に永年貢献のある9名の方々に公民館活動功労者表彰が、また、20年以上にわたり貢献された1名の方に特別表彰が行われました。

シンポジウムでは、松前町民憲章の一つである「活力のある町づくりに向けて」というテーマで、各公民館3名の方々の意見発表があり、会場とも意見が活発に交わられました。

記念講演では、「いい仕事してます」の名言句で有名な中島誠之助さんが、テレビ番組収録の様子なども交えながら、骨董の見方、考え方などをお話してくださいました。



▲中島誠之助さんによる記念講演

発表1 加藤 博徳さん(中川原) 分別収集への取組みについて

中川原では、平成13年2月に新たに環境部を設置し、各家庭から排出されるゴミの分別回収と環境改善に取り組むこととなった。

公民館で勉強会を実施し、併せて「リサイクルセンター中川原」を設置した。センターでは、月に2回、22品目に分けたゴミを回収し、種類によっては再資源化を進めている。

今年の課題は、米のとぎ汁を利用して微生物の培養液を各家庭でつくり、河川の浄化に取り組むことである。

混ぜればゴミ、分ければ資源。限りある資源をリサイクルにより、地球にやさしい生活環境がつけられると思われる。

発表2 森 憲幸さん(北黒田) であい、ふれあい、まなびであい

北黒田では「自分たちで自分たちの地域づくりをしよう」「公民館に集まり、学び、交流し、喜びを味わう」を合

言葉に事業を展開している。文化祭では特徴として、15の体験コーナーを設け、大人と子ども、子ども同士の交流を深めている。

また、地域に住む小学六年生の児童から、独居老人へ年賀状を出している。今後、児童たちがグループで老人宅を訪問することに発展すればと願っている。

完全学校週五日制の実施に向けて、分館活動に課せられた期待は大きい。親子参加を主体とする体験学習事業、他地域との交流事業などに取り組むたい。

発表3 足立 廣子さん(上高柳) 「みんなの」分館活動をめざして

私たちは、「地域の仲間として心をつなぐため、分館としてどうすべきか」考えながら、諸活動に取り組んでいる。

上高柳では、昭和5年に伊予万歳若葉会が発足し、盛んに活動していたが、いつしか途絶えたこの会を復活させ、継承したいという思いから伊予万歳を取り入れた「上高柳フェスティバル」を平成10年より開催している。地域の方に、より多く自ら積極的に関わってもらうため、ボランティアを募集し、実施している。

また、今後は地域行事に児童・生徒のより多くの参加を募り、子どもを育てる地域としたい。

まとめ 升田 須賀子さん(コイデイナーター) 活力のある町づくりに向けて

*ゴミの分別排出について勉強を重ね、「自分たちでできることから」と地域レベルでの活動を創出し、そこからエネルギーが生まれてきたと思う。

「そこまでしなくてはならないの」から「私たちの手でやらない」と、一人ひとりの意識が変革されたことは素晴らしい。

環境は水や大気、土や生物など有機的につながっていることから、ゴミだけでなく、ひろくは地球にやさしい環境づくりにつながる。自然と人間とが共生できる町づくりをめざしたい。

*公民館の活動を拠点として、地域でみんなが子どもたちを育てようとする熱意が伝わってきた。現在、大人と子どもが近くて遠い関係にあると言われるが、同一体験を通して共に育ち合わなければならぬ。

「わたし」が主体となって組織の中の一員となり、各自

に出番があり、自分も楽しいということが基本となり、コミュニケーションが深まるのである。

*みんなの分館なのだから、だけれども、いつでもボランティア活動でやろうという意識を持ち、文化祭を成功させた。その活動を通して、新しいことに挑戦しようとする知恵とエネルギーがわき、地域に新しい風が吹くことを感じた。

地域での活動は、自分がより育つための活動であり、豊かな学びになっている。その結果、町の環境が美しくなり、人と人がつながり、学びあって共に生きていこうとする、活力のある町がつけられるのだと考える。

公民館活動功労者表彰受賞者

- 徳 丸分館 門屋 富雄
 - 〃 〃 森 和幸
 - 横 田分館 日野 正憲
 - 北黒田分館 水口 晋實
 - 〃 〃 田中 キミ子
 - 〃 〃 仲田 恭平
 - 本 村分館 三好 一榮
 - 昌農内分館 石本 俊明
 - 西古泉分館 山口 久夫
- 特別表彰受賞者
宗意原分館 篠崎 雅一 (敬称略)